

プラスワンチャレンジ解答と解説

5年 単位量あたりの大きさ

じろうさんはスーパーマーケットへぶたのバラ肉を買いに行きました。広告通りに 100 g で 240 円と表示してありました。2 パックを買いますが、A のパックは 250 g で 600 円、B のパックは 300 g で 720 円でした。じろうさんは、「どちらも本当に 100 g で 240 円になっているのだろうか。」と思いました。



ぶたバラ肉
100 g 240 円

A と B、2 つのパックとも本当に 100 g で 240 円になっているのでしょうか。正しいと思う考え方に○をつけ、選んだ理由を下の□にかきましょう。

(○) A も B も両方とも 100 g で 240 円になっている。

() 片方だけが 100 g で 240 円になっている。

() A も B も両方とも 100 g で 240 円になっていない。 (50 点)



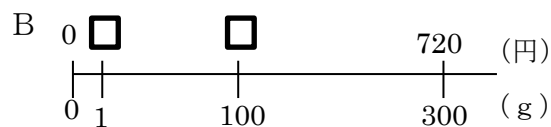
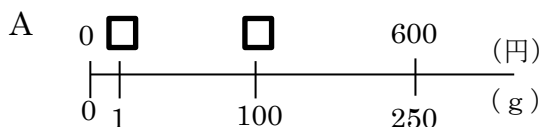
選んだ理由 (50 点)

例 1) A の 250 g を 2 倍の 500 g にすると、値段も 2 倍の 1200 円になる。500 g は 100 g の 5 倍なので、5 でわって、100 g の値段を計算すると、 $1200 \div 5 = 240$ になる。したがって、A は 100 g で 240 円になっている。

B の重さは 300 g で、100 g の 3 倍なので、720 円を 3 でわると、 $720 \div 3 = 240$ になる。したがって B も 100 g で 240 円になっている。だから、A も B も両方とも 100 g で 240 円になっていると言える。

例 2) A $600 \div 250 \times 100 = 240$ B $720 \div 300 \times 100 = 240$

まず、1g あたりの値段を計算し (A も B も 2.4 円)、それを 100 倍して 100 g の値段を計算すると、両方とも 240 円になる。だから、A も B も両方とも 100 g で 240 円になっていると言える。



解説 例 1 は、100 g だといくらになるのかを調べるやり方です。B のパックは 300 g なので、「3 でわればいい。」ことには気づきやすいですね。A のパックは 250 g のままだと計算しにくいので、2 倍にして 500 g で 1200 円にしてから「5 でわる。」ことを思いついていた人がいて、工夫していると思い、例にのせました。

例 2 は、まず「1g あたりの値段」を求めてから、100 倍して 100 g の値段を計算しています。まさに「単位量あたり」の考え方を使ったやり方ですね。説明する時に「1g あたり」という言葉を使えた人は、大変すばらしいです。そのほかに、「まず」「つぎに」「これで」などの順序を表す言葉を使って説明することも大切でしたね。みなさん、むずかしい問題にチャレンジして、りっぱですよ。次もがんばりましょう。